

# 説 明 書

北九州市立医療センター

## 内視鏡的胃粘膜下層剥離術について

あなたの病気に対して、内視鏡的胃粘膜下層剥離（はくり）術という内視鏡手術を行います。

### 【治療の方法、入院の経過】

1. この内視鏡的胃粘膜下層剥離術というのは、普通の内視鏡検査と同じように、内視鏡を胃に入れます。電気メスを使って、まず病気の周りの粘膜を切ります。次に病気の下の部分をはぎ取って切除します。
2. 切り取る途中で、出血が必ず生じますが、その都度止血を行います。また、深く切れすぎて胃に穴が開かないように、細かい作業を行います。そのため、切り取る時間は、小さな病気で30分程度ですが、大きい病気の場合には2時間（難しい場合には2時間以上）かかります。
3. 苦痛が生じないように、鎮痛剤や鎮静剤を注射して、少しボーッとした状態で行います。しかし、開腹手術の場合の全身麻酔とは異なり、完全に眠った状態で行うわけではありません。
4. 病気の部分を切り取ったら、そこに傷（潰瘍）ができます。この傷は時間が経つと自然に治ります。しかし、治療後に、出血したり、胃に穴が開いたりする場合があります。そのため、数日食事が食べられません。また、安静の意味での入院が約7日程度必要です。（ただし、傷の大きさにより、入院期間は短くなったり、長くなったりします。）

### 【治療関連併発症】

#### (1) 出血

- ・切除部位から、出血を生じる可能性があります。少量の場合は自然に軽快しますが、大量の場合は、内視鏡検査を行い、内視鏡的止血術が必要になる場合があります。
- ・大量出血すると、非常にまれですが輸血が必要になる場合があります。（当科ではこれまで4例）。
- ・出血が止まらない場合、血管カテーテル検査・塞栓術（当科ではこれまで1例）や緊急手術（当科では経験なし）が必要になる場合があります。
- ・出血の程度により、絶食や入院期間が延びる場合があります。
- ・治療中～退院後1ヶ月程度は出血の可能性があります。退院後の出血の場合は再入院し1～2週間程度の治療が必要となる場合があります（当科ではこれまで5例）。

## (2) 穿孔（胃に穴があく）

- 胃の壁は薄いので、切除中あるいは切除後に、胃に穴があく場合があります。
- ほとんどはクリップといって、ホッチキスのようなもので穴をふさいで済むことがほとんどですが、その場合、絶食や入院期間が延びる場合があります。
- 非常にまれに開腹手術が必要になる場合があります（当科では経験なし）。特に、治療後しばらく経ってからの穿孔では、緊急手術が必要となります。手術をした場合、入院期間が1～数週間延びます。

※ これらは、どんなに最善を尽くしても、一定の確率で起こりえます。当院の頻度を示します。

	出血で輸血	退院後の出血例	穿孔で手術
当院(2012年12月まで)	0.36%(4/1123)	0.45%(5/1123)	0%(0/1123)

※ 死亡することがまれにありますが、当院では今まで死亡例はありません。

## (3) その他

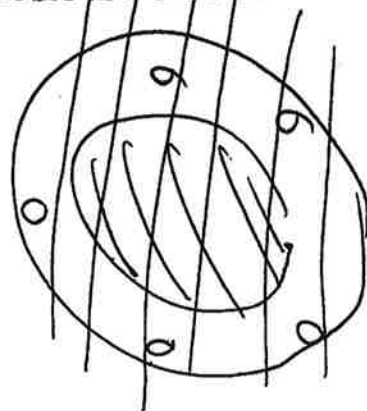
- 治療中に唾液などが気管支や肺に入り、肺炎を起こすことがあります。抗生剤や酸素の投与が必要となり、その治療のため入院期間が延びる場合があります。
- 切除部位に炎症が生じ、痛みや発熱が起こる場合がありますが、数日すれば軽快します。
- 治療中に用いた鎮静・鎮痛剤により、嘔気やめまいが起こる場合がありますが、時間が経てば軽快します。

### 【治療途中での中止の可能性】

- 治療途中で、腫瘍摘除が困難と判断した場合（腫瘍が深くもぐっている、粘膜下層の線維化がひどい）は、途中で治療を中止する場合があります。その場合は、後日外科手術となります。

### 【病変切除後の評価】

- 治療前の診断はあくまでも予想です。切除した病変を顕微鏡で詳しく診た結果が最終診断となります。
  - 切除後、7日～10日程度で結果がでます。
- ① 良性腫瘍で、きれいに取りきれていれば、治療は終了です。
  - ② 癌であって、きれいに取りきれて癌が浅ければ（その他条件あり）、治療は終了です。
  - ③ 癌であって、きれいに取りきれていない場合、きれいに取りきれていても癌が深い場合は追加手術が必要となります。その場合は、改めて外科を受診し、その後手術となります。



# 同意書

北九州市立医療センター

私は、患者 〇〇〇〇様の内視鏡的胃粘膜下層はくり術に関して、その内容、目的、必要理由、副作用、危険性、予後および代替え可能な医療につき、別紙添付の説明内容に基づいて説明いたしました。

平成 29 年 03 月 13 日

消化器内科

医師 江崎 充 印

立会人署名

私は、現在の疾病の治療に関して、上記の内容の説明を受け、十分に理解した上で上記の医療(検査・麻酔・手術)を受けることを同意しました。

また、上記の医療を行う上で必要な処置、および上記医療において予測されない状況が発生した場合には、それに対処するための緊急処置を受けることも併せて同意しました。

平成 29 年 3 月 14 日

患者本人署名

親族または代理人署名

患者との続柄

1. 本人の署名がある場合は、代理人の署名は不要です。
2. 本人の判断不能な場合は、代理人が署名してください。
3. 本人の同意に基づき本人の署名を代筆した場合は、代筆者は代理人欄にも署名し、患者との続柄を記入してください。

北九州市立医療センター

院長 豊島里志様

患者ID: 0095015175

患者氏名: ~~豊島里志~~

### 説明・同意書について

診療行為は多くの場合、身体に対する種々の程度の侵襲（場合によっては生体に不利益をもたらしかねない外部からの刺激、例えば手術や薬の投与など）、言い換えれば、程度の差はあれ「危険」を伴います。一方、診療行為を施される身体・生命の複雑さや個々の身体の多様性などから、医療にはどうしても一種の「不確実さ」が避けられません。

以上のことから、診療現場ではある確率で様々な身体的障害（一般に「合併症」と呼ばれます）が起こり得ます。予測される主なものについては説明いたしますが、すべてを事前に言い尽くすことは残念ながら極めて困難ですし、すべてを網羅しようとして患者さんを必要以上に不安に落としいてしまうことも懸念します。但し、実際にはほとんどの患者さんは順調に治療の目的を達せられていることも事実です。

診療行為により身体に障害が生じた場合、医療者側に過失がある場合には病院側の責任となりますが、過失がない場合には通常の保険診療によって障害の治療を行います。もちろん生じた障害の治療には過失の有無にかかわらず最善を尽くします。

こうした事情をご理解いただいた上で同意書にご署名くださいますようお願いいたします。疑問があらわれるときには、署名に先立って主治医・担当医に納得ゆくまでご質問ください。

なお、同意書に署名し提出した後に撤回されたい場合は、いつでもお申し出ください。

北九州市立医療センター  
院長 豊島里志